

日常

本田雅子

点滴と手術のために入院する君に

何も言う事がない

どうしてこんな事になったのか

問い直す事もしない

突然に判明した病を淡々と語る君

検査から始まった治療への道筋

異変の兆候はあったのに

詳しくは調べなかった

たいした痛みではないと

思い込んでしまった

誰にでもそれぞれのやり方があるし

この人はこういう人だからと納得し

何よりも無難に過ごしてきたから

それでよしとしてきたが

今まで何を見落としてきたのだろう

君がいつかはいなくなるかもしれないと

誰かれに言ってきたが

ほんの軽い気持ちだったのだ

これから先

どんなふうになっていくのか

いつもどおりの日常が変わる